

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年9月2日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3871400317
事業所名	グループホーム昴星
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏 名	渡部 ちひろ (中川 伸明)
自己評価作成日	令和 元/ 8/19

【事業所理念】 ・私たち家族は明日に向かって自由に考え束縛されことなく、共に楽しく生活をします。 ・私たち家族は、相手を思いやり、いたわりの気持ちを持って接します。 ・私たち家族は、隣近所の方々とも仲良くお付き合いができ、お会いできることを楽しみにしています。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・地域との交流も増え、保育施設、小学校、中学校の行事や地元の行事にも参加する事で外部との交流を図れている。また事業所内でも中学校の体験学習の受け入れを行っている。運営推進会議の構成員は伸びず、少数なのでやはり積極的な意見を聞く上ではもっとたくさんの方々に構成員として参加して頂かないといけない。昨年の西日本豪雨災害を経験して、地域との密な関係性を築く事の大切さを再認識した。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は自然豊かな緑に囲まれた高台にあり、利用者は四季の移ろいを感じながらきれいな景色を眺めており、毎日落ち着いた日々を過ごしている。管理者をはじめ職員全員が認知症を理解し、利用者が自分らしさを保ちながら笑顔のある生活が継続できるよう、利用者目線で関わることを基本に支援している。利用者の尊厳を重視し一人ひとりのできること、できないことを把握しながら利用者本位のケアに努めている。母体である診療所が利用者の健康管理を行うなど24時間医療連携は整い看取りにも積極的に取り組んでおり、家族も安心することができる。職員の関係性は良好でコミュニケーションも取れており、お互い尊敬し合い利用者を支える者としてサービスの質の向上に真剣に向き合う毎日である。
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	安心、安全にその人らしい生活が送れるよう努めている	○		○	入居前に利用者個々の希望や意向を確認するほか、家族には面会時に新しい情報を確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	ふとした時に出た言葉やしぐさなど、本人の思いを共有しようと努めているが、思いが共有できない時もあり				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会に来られた時話を聞いている。あまり、面会に来られない方は、電話にて話を聞いている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録やアセスメントに記録して職員間で共有している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	ケアカンファレンス会議において、職員の思い込みも多く他の職員の意見も会議に反映するようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前調査、訪問来客からお聞きしてアセスメントを活かしている			○	利用者個々の暮らし方の希望等を家族や親戚などから聞いている。地元の友人や知人等からも利用者のこだわりや大切にしてきたことなどを聞いている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人に出来る事・出来る能力があると思える事は、時間をかけてでも実施している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	どのような感情起伏があるのか、把握に至っていない入居者もいる				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	△	病状の進行や精神的や排便状況からきているものなのか把握に努めているが、要因の見極めに至っていない				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	△	出来ている方と出来ていない方あり、介護記録のその他として記録している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	日常生活の観察から、顔の表情や本人の気持ちを傾聴して話し易い・訴え易い環境を作ろうと努力している			○	利用者や家族等からの情報をもとに、利用者が本当に何を必要としているのかという視点に立って検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	会議時以外でも、日頃からどう支援したらよいか話し合っている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	課題を明らかにできていないが、日々の業務の中で課題は何かを検討し話し合っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	思いを伝える事が出来ない方が多い。理解が出来ない方は、家族や主治医の意向をもり込んで、プランに反映している				利用者の状態を確認しながら家族や主治医に相談し、それぞれの意見等を反映し介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人・家族・主治医に聞き取りを行い、意向に沿ったプラン作りが出来るよう努力している	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	医療連携のアドバイスのもとフロアや居室で過ごして頂き、利用者の方々・家族とも関わりを持って頂いている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の人とはできているが、地域の人たちとの協力体制という点では反映されていない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	サービス実施状況を介護記録で確認してモニタリング・ケアプラン計画を話し合っている。			○	職員は利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・共有している。介護記録用紙には短期目標やサービス内容を記載するほか、介護計画に沿った支援ができているかどうかについて記録しており、職員間で共有して日々の支援につなげている。利用者個々の言葉や表情、職員の気づき等について記載している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	日々の実施したことを記録し、ケアプランなどに反映できるようにしている			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	本人が発した言葉や表情なども記録に残すようにしている			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	生活しやすい工夫や、転落防止などを工夫したり職員の申し送りノートに記録し共有している			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直し、緊急時には都度の見直しを行っている			○	介護計画は6か月毎に見直ししている。毎月1回カンファレンスを行い利用者の現状を確認している。骨折など状況に大きな変化があった場合は、その都度家族や主治医等関係者を交えて介護計画の見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1度の状態をモニタリング表を作成し、活用している			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化が生じた場合、家族や主治医に連絡を取り、ケアカンファレンスを開催し話し合いをして作成している			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	会議を月1度開催し、急変時には、ミニカンファレンスを開催している			◎	月1回カンファレンスを行うほか、利用者の状況変化等緊急の場合は、その都度ミニカンファレンスを実施して課題を解決している。情報は、議事録等を回覧することで、参加できなかった職員も含めて全員が確認・共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	問題の発生している利用者に対しては職員みんなで話し合っている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議の日程は希望休のない日を選んだり、時間を夜に設けて常時参加できている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	報告書だけでなく申し送りノートや口頭で伝えるようにしている			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	業務日誌、連絡帳には読んだらサイン(押印)をしている			○	業務日誌や会議録など職員全員が記録を必ず確認・押印することにより、確実に伝達するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	口頭や業務日誌連絡帳を活用しているが、職員によっては連絡を伝えていない職員もいる	○			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	本人の意見や思いを大事にし、出来る範囲で介護にあたっている				衣服や飲み物を選択してもらうなど、利用者に自己決定してもらう場を設けているが、なかなか決められない時は、急がせてしまうこともあるため、今後は利用者がゆっくり選べるよう配慮することが望まれる。重度の利用者を含め、笑顔が引き出せるよう声かけを工夫するなどの雰囲気づくりに期待したい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	忙しい時には、急がせてしまう時もあり、職員のゆとりが必要			△	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	日々考えていることや、話が変わる事が多く把握することが困難であるが、意思表示が出来る方については希望に添える様に努力している				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	他者、個人の対応に時間をかけると、その他の利用者への対応が不十分になることがあり出ていない				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	利用者との会話を密にして利用者の気持ちに添える活動を行いたい、職員の都合で出来ない事が多い。			△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	意思疎通を図ろうとしているが、表面的な判断だけで意思疎通が、出来る時や出来ない事が多い。逆に、こちらの都合だけを押し付けている事もある。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	研修などで勉強している。ケアカンファレンスで話し合っており、より良い言葉かけで対応できるよう心がけている		○	△	職員は人権や尊厳などについて研修で学んでおり、お互いプライバシーを尊重した態度や声かけ、居室出入り時のノックなど配慮に欠けていることもあるため、今後は職員全員で徹底するよう取り組むことが望まれる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	利用者に対する敬意を払うように教育されているが、介助の中に配慮を欠く言葉かけや誘導も観られる。			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	トイレや浴室には、プライバシーに気を付けているが、担当職員以外の職員の入室が度々ある。配慮に欠ける。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	各自室の部屋はほとんど解放しているが、利用者によっては居室のドアを閉められている			△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解はできているが個人情報の共有は出来ていない。書類の破棄には、問題が残る				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	△	利用者で、できる方に味見や料理などについてお伺いしたり、利用者の危険な場面を知らせて頂いている				職員は利用者同士の関係性を把握しており、不穏な雰囲気になりそうな時は職員が仲介しトラブルを未然に防いでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	できる利用者については声かけ合ったり、他の利用者の体調変化をにつて伝えてもらったりしている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	△	折り合いが合わない利用者同士で言い争いになる前に、職員が間に入っている			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが、長引かない様、職員からの声掛けや冷静になって頂くための、時間と場所を作っている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	縁が切れる事が無いように支援や声掛けを行っている。家族に、親しい人や慣れ親しんだ環境について聞いている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人の話の中から出てきたことや、家族から話を聞くなどして把握している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	個別の外出が出来ていない。家族様に外出の支援をお願いしている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	利用者によっては、近隣の方が来て頂いている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	計画をたてた外出はあるが、勤務状態などの理由でその日の要望には添えていない	○	×	×	計画を立てた外出以外、日常の中で外出する機会はないため、利用者一人ひとりの希望に沿って外出することを期待したい。重度の利用者を含め、事業所の庭先に出るなど外気に触れ気持ちよく過ごす機会を増やす取り組みが望まれる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域のボランティアや認知症サポーターの方がいない。家族様に外出支援をお願いしている				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	体調の状況から実施できていない			×	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人の希望を家族様にお伝えする事や手続き、外出準備をお手伝いする程度。要請がなければ、直接的な支援はしていない。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の勉強会は、実施しているが、出来ているかは、疑問が残る。顔の表情や身体的変化を読み取ることが出来ているのは、一部職員のみである。医療連携などからアドバイスをもらっている。				塗り絵など利用者ができることは自身で取り組んでもらうようにしているが、職員が中心になって行う場合が多いため、今後は利用者が積極的に取り組めるよう、職員は極力手をささず見守りながら支援することが望まれる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の経過観察を続け、体調の変化等については、申し送りで職員全員が、把握する体制を作っている。主治医と医療連携の看護師にアドバイスをいただて実施、観察している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	残存能力を、極力使って頂く事を目標に見守りを行っているが、危険を伴う行為については、過剰な介護となっている事がある。	○		△	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	入居者の習慣・希望など把握できるよう努めている。ケアプランに組み込み役割が日課となるよう支援している。				洗濯物を干すことやたたむことなど、利用者はそれぞれの役割や出番を楽しみながら取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	認知症や障害があってもできる範囲で役割が持てるように支援している。出来たことに対して感謝の気持ちを伝えている	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域行事にも積極的に参加して作品展示も行っている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	△	一部の入居者は本人の個性を尊重した身だしなみができている				利用者の衣服に、汚れ等がある場合は周りに気づかれないよう着替えてもらっている。食事時の食べこぼしなどもさりげなく片付けている様子をうかがうことができた。重度の利用者を含め、好みの衣服を着たりお気に入りの髪型に整えたりするなど、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	髪型については、訪問カットの方に自分の希望を述べているが、表現できない方は、訪問カットの方の感覚になってしまっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	季節に合わせてその方に合った服装を支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	自己決定できない利用者に関しては、気温や季節に合ったものを職員が選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、さげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	衣類の汚染がおきた時に更衣など行なっているが、本人が羞恥心を持つことのないようさりげなく支援している	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族の協力で来所されカットされている利用者もいるが、ほとんどの利用者は、訪問利用している				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	入居者の身体状況に合った服装になっている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事も大切なケアや楽しみのもととして理解している				調理の下ごしらえやお膳拭きなどは利用者到手伝してもらっている。地元の旬の野菜等を使用した昔懐かしい料理を、利用者の好み等に配慮しながら提供している。食器は馴染みのある使いやすい物を使用している。職員は食事中見守りに重点を置いており、一緒に食卓を囲んで食事をするのではないため、今後は役割分担を行うなど工夫することで食事を一緒にとる取組を期待したい。対面式の台所になっているため、重度の利用者を含め調理の音や匂いなど雰囲気を楽しむことができる。献立について話し合うことがあまりないため、利用者がバランスよく栄養が摂れるよう、職員間で定期的に話し合う機会を設けることが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	簡単な下ごしらえや台拭き、御膳拭き等を行うことができることもある			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	身体状況の面で実施できる利用者がいない				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握した上で、苦手な物でも少しは摂取して頂く様にしている。又、代替えの食品を提供する時もある				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	入居者の誕生日にはその方の好きな物にする等して対応。また、おやつに昔の懐かしいものを出している			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	△	利用者の状況に合わせて刻み食を提供している。油物などは、体調に応じて他のものに変えるなどの工夫が出来ていない事もある				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や箸は自分の好みや馴染みのある物を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	同じ食卓は囲んでいないが、見守りは行っている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	対面式キッチンであるが、視覚、嗅覚で味わっているかは疑問である	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	経過観察記録に記録して職員全員が共有している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	栄養の足りない方は栄養補助食品を提供し、水分摂取の足りない方は飲み物の工夫を行っている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士は在籍していない為、職員が配慮している			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	△	毎日洗浄、乾燥、毎日除菌を行っていない日がある。食材の賞味期限は確認している				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	施設では、誤嚥性肺炎などの勉強会を実施して重要性を理解している。水分補給は、とろみなどを付け誤飲に注意している。				利用者個々の口腔内の状況は把握するようにしているが、十分ではないため、毎日口腔内の健康状況を確認し清潔が保てるようケアに努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	義歯の事や歯の痛みは、把握している。しかし、これ以外の口腔内の個別問題は、把握出来ていない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科医師や歯科衛生士から口腔ケアのやり方の指導を研修で受けているも、職員全体の周知には至っていない。家族に相談の上、希望に副い対応している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	入居者、職員がそれぞれ適切に行えている。毎日義歯洗浄剤を使用している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯磨きの出来る方は自分で行っているが、出来ない方は、介助で行っている			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	家族に相談の上、希望に沿い対応している。訪問診療が多い				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	便座での排泄が出来る方は、介助にて排泄を支援している。				日中トイレでの排泄を基本として支援している。排泄用品等の適正性については職員間で話し合っており、利用者個々のその時の状況に即して対応している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘にならない為に、運動をしっかりと行っている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄周期から声掛け等行っている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	本人の意向と会議で話し合い、状態に合った支援をしている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	ケアカンファレンスなどで話し合い、改善方法も模索している。安易に便秘薬など使用している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	最終排便や周期から適度に声掛けを行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中帯については、紙パンツを使用して頂いていても、夜間帯は、トイレ誘導の出来ない方などは、オムツ、リハビリパンツなどで対応している。本人などに対しても説明しているが、理解できない方が多い。家族に対してはその都度、説明し承諾して頂いている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	職員で話し合い夜間はおむつを使用するなど、一人一人の状態に合わせて使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	ヨーグルトや牛乳など飲用して便秘予防しているが、まだ改善には至っていない。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	人員配置が勤務状態により午前中での入浴が主になっており、希望に添えていないこともある	◎		○	入浴日は決めておらず、最低週2回入浴できるほか、入浴の順番等は利用者からの要望に応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	湯船にゆっくり浸かりたい方は体調や入っている時間を考慮してゆっくり浸かって頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	基本的には、出来る事は自分で行って頂いているが、洗いやすい部分のみで残りは、職員が介助を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	少し拒否される方が1名おられる。フロアに出ている時、声掛けしたり翌日に入って頂いたりする。入られたら、気持ち良かった、と満足される。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、バイタル測定や本人の体調などを確認して入浴して頂いている。入浴後は、体調確認や水分の補給を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	△	日々の状態や状況に応じて変化する為、把握が困難である				日中の活動量を増やすなど工夫し、安易に薬剤に頼らないようにしている。不眠が続くなどやむを得ない場合は、主治医と相談し薬剤を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	利用者の気持ちに寄り添い対応するなどしているが、眠られていない日が続く日もある				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	日中や、夜中の様子を観察し、医師と相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	休みたいと希望される方や、ウトウトされる方は休んで頂ける環境になっている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望がある方は、対応しているが、大半の利用者は希望がない				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話や郵便物の発送の支援を行っている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	時間帯には考慮しながら、電話できるよう対応している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いたことについて一緒に喜び、返信されることもある。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	可能な限り、理解、協力して頂いている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	外出時以外は、金庫預かりとなっている				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物行事が少なくなってきているので増やすよう検討中				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物行事が少なくなってきているので増やすよう検討中				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	時々の外出や家族が持って来られる物で満足されている方が多い。買い物の声かけを行っても「しんどい」「行かない」と話される				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	基本的に、お金の管理は施設が行っている。預り金(お小遣い)はある程度必要と家族に説明している。(散髪等)				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	必要なものを購入する時は、家族の了承を得ている。出納帳も記録して、毎月領収書と共に帳簿のコピーをお渡ししている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	状況によっては、サービス内容と違った支援方法を試すこともある	◎		○	急な病院受診や看取りの場合に24時間面会ができるなど、利用者や家族からの要望があれば柔軟に対応している。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	適度な駐車スペースがなく、門の幅も狭く感じる	◎	○	○	玄関には生花や鉢植え等を飾っており、親しみやすく気軽に入れる雰囲気づくりに努めており、家族も好印象を持っている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	季節に合わせた花を職員が用意したり、壁面の装飾等利用者の方に手伝って頂いている	◎	○	○	共用空間には季節の花などを飾り、心地よく過ごせるよう配慮している。掃除も行き届いており清潔感がある。ベランダではプランターで季節の野菜を育てており、壁には季節に応じた飾りつけをするなど、季節感を味わうことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は毎日行っており不愉快な思いをさせない様、配慮している。また、カーテンの開閉や居室の温度管理を行っている。	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	その都度、季節に応じた掲示物や花を置いている	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者の方には、横に座って頂くよう配慮している。レクリエーションや食事が一緒に出来るよう配慮している。一人で過ごしたい方には、無理なフロアへの誘導は控えている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	玄関先からは見えず、入り込んだ場所に設置している。また、引き戸で仕切られ見えないようになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	施設での写真や家族様との写真を飾っている。家で使われていたクッション、布団を使って居心地良く過ごされている。	◎	/	○	居室には家族の写真等大切なものや使い慣れた寝具などを置いており、居心地よく過ごせる空間になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	車椅子で移動する時、障害になる段差などの解消を行ったり、トイレ・脱衣場などが分かりやすいように表示、不要なものを置かない様 車椅子の移動に配慮している。車椅子の利用者が増えた為、交差に不便を感じている。	/	/	○	利用者が安全に移動できるよう手すりを設置している。また、車いす移動の妨げにならないよう足元には不要なものを置かないようにしており、安心して自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	トイレや浴室等については、入り口に大きく表示して、判断ミスに配慮しているが、混乱した利用者には職員が誘導している。利用者の居室移動もあり混乱する事もある。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	新聞やチラシ、コップなど手が届く範囲に置き、いつでも利用できるようにしているが、危険な刃物類、工具は目の届かないようにしている。ポット、洗剤などは、職員の管理できる範囲に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	利用者の自由を奪うような事、拘束になるような事は、勉強会などで教育を受けて理解している。身体拘束廃止委員会を新しく開設して拘束のない施設を目指している。	◎	◎	○	代表者及び職員は玄関等に施錠することの弊害について理解しており、日中は鍵をかけておらず、自由に出入りできるようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	夜間徘徊などを心配されている家族もいるが、常に見守りや巡回を行っている為、居室やフロアの施錠する必要がないことを説明している。帰宅願望のある方は、話の傾聴をして、対応する	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	△	季節が良くなれば、常に複数の職員が見守りを行ない、行事や散歩などを行って、ストレスのない施設生活を送り、日中施錠する必要のない事を家族にも説明している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	職員は一人ひとりの経過観察に病歴のが記載確認をしているが確認ができていない人もいる				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日、計測して記録に残し、必要であれば再検する。一人一人の顔の表情やしぐさも記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	直ぐに主治医や医療連携の相談できる体制を取っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	契約時、説明したり、その時々で希望される医療機関に受診できるよう柔軟に対応している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族にも十分に説明を行い、適切な医療を支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診前に家族に説明し受診後、結果を報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供表を作成し、すぐに理解できるようにしている。必要に応じ電話連絡での情報提供もやっている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	日々の電話連絡や、お見舞い時に現状を聞いている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	入院は、母体である病院ではないので関係作りは出来ていない				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	介護職は、常に医療連携の看護師と連絡が取れるようになっている。訪問看護師とは利用者の情報交換や気づいた点・看護師からの指示・介護指導をその都度、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	いつでも連絡できるように連絡先を明確にしている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	△	毎朝、バイタル測定や表情の確認、体調変化を確認している。長期の変化は、経過観察で変化を見ているが、気づかない事もあり、外部(看護師)からの指摘で判明する事もあった。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	経過観察に利用者の服用している、薬につて明記している。副作用は、個別資料に記載されているが、すぐに説明できない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	分包されており、袋には名前といつ服用するを記している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	心身の様子を記録に残すようにしているが、それが、副作用からの症状かは、確認できていない。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師の指示通りに服用させている。変化があった場合は、医療連携看護師の指示を仰いでいる。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時、また状態が変化するたびに希望を取り直している				重度化した場合や終末期における支援方法は、利用者や家族、職員、医師等関係者と話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	重度化・終末期の情報は、家族等に再確認や心のケアなどの声掛け、職員は終末期に行う手順の確認、情報は医療機関に提供する事になっているが、医療機関と介護職の間・家族間で共有出来ていない事もある。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	終末期の準備・手順の確認を行い、つても対応できる体制づくりを行っているが、職員によっては不安を持っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	場合に限り、しっかりと説明し理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	重度化や終末期には、家族へ利用者の状態説明などを行い、充実した生活を送って頂くための説明を行うも、医療行為が中心となり充実した終末期を迎えられているのか疑問である。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	逐一、状態を報告できるようにしている。また、職員は家族の話に傾聴し思いを理解するよう努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	職員は、感染症の媒体にならない為の体調管理、手洗いの慣行を行っている。利用者の体調管理を行い、感染症に対する知識を高め、早期発見・早期対応できるように、研修等を行い学習している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症の勉強会や研修に参加して知識を高め、予防や対策を準備・マニュアル作成を行っているが、マニュアル通り出来ていない時もあった。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	職員にチェックするように声掛けをしている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	事業所負担で予防接種を受けたり、手洗い、うがい、消毒の徹底をしている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	△	職員が感染症の媒体にならないように、手洗いの慣行、アルコール消毒の実施する事になっているが、簡単な手洗いのみが多い。また、来客者の方にも消毒の徹底が出来ていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	職員は、冷静な対応が求められる為、家族と喜怒哀楽することは、出来ていない。本人や家族に対して関係を築いてく体制を引き続き行っている。				家族会や誕生日会などの行事は家族に案内状を送付し出席してもらっている。家族が遠方におり面会の機会が少ない場合は、毎月利用者の様子がわかるよう写真入りの広報誌を送付し状況を報告し、電話での近況報告も行っている。事業所の運営上のことや職員の異動等については、その都度わかるよう丁寧に説明している。家族の面会時には、職員が積極的に声をかけ、利用者の日頃の様子を伝えたり、家族からの要望等を聞いたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	笑顔で対応しお茶をお出し、くつろいでいただける様、配慮している				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族の要望に対し、柔軟に対応している	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月1度、入居者の状況が伝わる広報を作成し、発送している。電話でも対応できるようにしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	気になることや不安に感じられている事を、面会時や電話等で報告している				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	近況の話は行っているが認知症への理解はまだ必要である				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	その都度、しっかりと説明が行えている	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会や面会時等、職員が間に入り取り持つこともある				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	その時の対応について理解を得るように話し合っている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	日頃から家族とのコミュニケーションを図っており、その都度しっかりと話せる関係ができています			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時、内容の説明を行い確認・納得してして契約を締結している。また、契約の変更はその都度、説明会を行っている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時、退去についての説明を行った上で納得して頂いている。退去時には、しっかりと情報提供が行えるように努めている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約改定や料金改定時には、利用者家族へその都度説明会を開催して納得のうえ、同意書にご署名押印を頂いている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	まだまだ理解を図っていく必要がある	/	◎	/	地域行事だけではなく保育所・小中学校の行事にも積極的に参加している。地域のふるさと祭りの話し合いなどには施設長が参加しているが、利用者の参加は不十分と思われるため、今後は利用者と地域との関わりが深まるよう住民との交流する機会を増やすことを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	地域の行事だけでなく、地域の小・中学校の行事にも参加	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	家族の方を含め、地域の顔馴染の方が協力して下さっている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	頻回というわけではないが、適度に訪問あり	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶は、こちらから積極的に行うようにしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	幼稚園の子供達が立ち寄って頂き交流された	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地元の食材やお米を利用し、食事を提供し摂取して頂いている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	まだまだ協力、理解を深める必要がある	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	出席者は開催回でバラつきあり、人数を増やしていく必要あり	×	/	△	運営推進会議に利用者の参加がほとんどなく、家族の参加者も固定されているため、今後は日程調整方法や議題を工夫するなど、参加が得られるような取組みを期待したい。評価結果や取組み状況等は会議で報告している。参加者からの意見や提案等については、職員間で話し合い運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	年6回の会議でも内容を変更して、様々な事柄を報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	事業所からは、行事の内容や催しについて報告などを行っているが、出席して頂いている委員の方々からもご質問やご指導を頂いている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	日程や時間帯は配慮しているものの、参加人数増が課題	/	△	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	市の役場にも提出している。フロアに掲示している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念を理解しているものの、日常的に取り組むには至らず				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ユニットの廊下の掲示板に掲示している。地域の人達に理念が伝わっているとはいき難く、伝える機会も少ない	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	力量に応じ、研修に最低年3回は参加して頂く様にしている				代表者は、希望休や勤務シフト、通勤時間等の配慮など、職員の要望に応じており、職員のストレス軽減につながる職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	業務カンファレンス後、社内勉強会を実施している。また経験や力量に応じ研修にも参加し、スキルアップを図っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	管理者は、職員の仕事の力量の把握及び提出物状況・出勤状況などを勘案して判断している。自己評価も年2回実施して職員の良い点・努力する点を直接指摘しているが、向上心が不足している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	当社での研修や南予地区研修会等に積極的に参加している				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の負担にならないよう研修の費用、勤務の調整を行っている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	身体拘束廃止委員会や、勉強会等で学び、適切なケアが行えるように従事している				職員は研修会で虐待等について学んでおり、不適切なケア等があった場合の対応方法や手順について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議時以外でも、勤務中でも機会がもてるように心がけている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	不適切な行為があった場合、上司に報告することを理解している			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員等にストレスがないか観察している				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	どのような行為が駄目になるのか勉強会などで理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	上記の様に、会議や勉強会などの機会を用いている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	そのような事例時には、話し合い理解して頂く様に努める				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会や資料などに目を通して内容の理解が難しい				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在、家族、利用者から相談は上がっていない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	専門機関との連携体制を今後きずいていく必要あり				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	CW室に作成したマニュアルを閲覧できるようにしている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	職員は、救急救命講習を全員受講して、緊急の対応が出来るよう教育を受けているが自信がない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	会議の中でも話し合い、同事例が起きないように努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	△	事故が発生した時は報告書及びミーティングを開催して原因の解明・対策等を話し合い類似した事故が起こらないようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成している。家族とのやりとりや、改善策を職員みんなで検討し、残すようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	書面に家族とのやりとりを記録し、職員全体で話し合い速やかに対応している。代表者に報告している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	職員全体で話し合って対策を検討している。家族とは、連絡をとりながら納得できる形をとっている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者からの意見や要望については、口頭にて伺っているが、話しづらい時は、家族様経由または、公共機関経由にて意見をうかがえる体制づくりになっている。			○	利用者からは日常生活の中で意見や要望を聞いている。家族からは面会時や電話などで意見や要望を聞くようにしている。管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図り、業務カンファレンス以外にも利用者支援に関する事など意見を聞く機会を設けており、事業所の運営に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族からの意見要望は、口頭でお伺いしているが、無記名で苦情を投稿できるよう玄関に苦情ポスト設置している。また、公共機関を経由して相談苦情をお伺いしている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入所以外は行っていない。玄関先には常時箱を設置している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	定期的に事業所を巡回され、直接聞く機会が作れている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	月1回業務カンファレンスを開催して、職員の要望や意見を伝えていくが、緊急を要する事柄については、直接意見を管理者に伝えている。代表者には管理者経由となっている。			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	年1回の取り組みで終わっている				評価結果は報告しているが、取組み状況のモニターをするまでに至っていないため、今後は参加者から取組みに関するモニターが実施できるまでの理解が得られるよう関係が深まることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	その時だけでなく、継続の為に意識統一していく必要あり				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	年間目標を決め、職員全員の目標と個別目標に分け、達成できるよう努めている。年度末には目標の自己評価や途中経過の達成レベルを判断している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	結果を伝え、事業所の今後の取り組みを報告している	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成状況について報告している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	災害ごとの対応マニュアルを作成している				年2回消防署の協力により避難訓練は実施しているが、地域住民参加の合同の避難訓練までには至っていない。今後地域住民と緊急連絡網の活用等について話し合う機会を設けるなど、緊急災害時の地域との協力支援体制を構築する取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回、消防署立会の下、日動、夜勤帯想定し行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	備品等の準備はできている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	地域の住民の参加が難しく、他事業所との連携もとれていない	○	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	地域の災害対策には、ほとんど参加できていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	地域の人には情報発信できていないが、中学生の職場体験をして頂いている				事業所に相談に来た人の相談支援のみであるため、今後は事業所の相談支援を地域にPRし、相談件数の増加に努めるなど積極的な取組みを期待したい。市など関係機関との協働の地域活動の実施には至っていないため、今後は認知症の理解、啓発活動につながる地域イベントを地域関係機関と協働して実施するなど、地域の福祉の拠点となる事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入所について相談に来られた場合、受け付けるだけでなく相談された時、丁寧に支援を実施するようにしている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	当事業所を集う場所としての活動は行えていない。家族会や当事業所の行事のみ使用となっている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	地域の中学生の課外授業として年に1回受け入れをしている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	地域行事に参加しているが協働という形では行えていない。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年9月2日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3871400317
事業所名	グループホーム昴星
(ユニット名)	3F
記入者(管理者)	
氏 名	中川 伸明 (中川 伸明)
自己評価作成日	令和 元/ 8/19

【事業所理念】 ・私たち家族は明日に向かって自由に考え束縛されることがなく、共に楽しく生活します。 ・私たち家族は、相手を思いやり、いたわりの気持ちを持って接します。 ・私たち家族は、隣近所の方々とも仲良くお付き合いができ、お会いできることを楽しみにしています。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・地域との交流も増え、保育施設、小学校、中学校の行事や地元の行事にも参加する事で外部との交流を図れている。また事業所内でも中学校の体験学習の受け入れを行っている。運営推進会議の構成員は伸びず、少数なのでやはり積極的な意見を聞く上ではもっとたくさんの方々に構成員として参加して頂かないといけない。昨年の西日本豪雨災害を経験して、地域との密な関係性を築く事の大切さを再認識した。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は自然豊かな緑に囲まれた高台にあり、利用者は四季の移ろいを感じながらきれいな景色を眺めており、毎日落ち着いた日々を過ごしている。管理者をはじめ職員全員が認知症を理解し、利用者が自分らしさを保ちながら笑顔のある生活が継続できるよう、利用者目線で関わることを基本に支援している。利用者の尊厳を重視し一人ひとりのできること、できないことを把握しながら利用者本位のケアに努めている。母体である診療所が利用者の健康管理を行うなど24時間医療連携は整い看取りにも積極的に取り組んでおり、家族も安心することができる。職員の関係性は良好でコミュニケーションも取れており、お互い尊敬し合い利用者を支える者としてサービスの質の向上に真剣に向き合う毎日である。
--	---	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	1人ひとりの自由を尊重し、束縛なく生活して頂いている	○		○	入居前に利用者個々の希望や意向を確認するほか、家族には面会時に新しい情報を確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情などから気持ちを読み取るようにしている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	知人、親類等多く、お話しする機会が多々あり				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入居者の発言に対して介護記録にしっかりと残している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の話しを傾聴し、思いを汲み取るようにしている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	アセスメントの周知と生活歴を把握するように努めている			○	利用者個々の暮らし方の希望等を家族や親戚などから聞いている。地元の友人や知人等からも利用者のこだわりや大切にしてきたことなどを聞いている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居時、6か月毎のアセスメントを定期的に行っている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	介護記録や日誌には記しているが、職員一人ひとりがしっかりと把握するまでには至っていない				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の記録にて職員が周知徹底し共有している				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	△	毎日の記録にて把握するように努めている				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のケアカンファレンスで意見を出し合っている			○	利用者や家族等からの情報をもとに、利用者が本当に何を必要としているのかという視点に立って検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケアカンファレンスで検討し、必要と判断したものは家族に了承のもと、支援している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	短期目標としてサービス提供を行っている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族の意向を反映したプラン作りをしている				利用者の状態を確認しながら家族や主治医に相談し、それぞれの意見等を反映し介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々の様子や主治医の意見も含み、反映している	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度の方は、状態に応じた生活となっているが、音楽は流すようにしている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	プラン計画の中に、そういったサービス内容が盛り込まれているプランが少ない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画を個別にファイルし、介護記録用紙には短期目標とサービス内容を明記し共有している			○	職員は利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・共有している。介護記録用紙には短期目標やサービス内容を記載するほか、介護計画に沿った支援ができているかどうかについて記録しており、職員間で共有して日々の支援につなげている。利用者個々の言葉や表情、職員の気づき等について記載している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月モニタリングを行い、次の介護計画に活かせられるようにしている			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護記録用紙に様子や発言等を記録している			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	こちらも個別の介護記録用紙に気づきや感じたことを記録している			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	月1のケアカンファレンスにて見直しを行っている			○	介護計画は6か月毎に見直ししている。毎月1回カンファレンスを行い利用者の現状を確認している。骨折など状況に大きな変化があった場合は、その都度家族や主治医等関係者を交えて介護計画の見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1は現状確認のためにモニタリングしている			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態変化があれば、家族に相談の上、介護計画の見直しを行い、作成し同意を得ている			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	入居者の状態変化があれば、すぐにミニカンファレンスを開催している			◎	月1回カンファレンスを行うほか、利用者の状況変化等緊急の場合は、その都度ミニカンファレンスを実施して課題を解決している。情報は、議事録等を回覧することで、参加できなかった職員も含めて全員が確認・共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	意見を出される方もいれば、発言がない方もおられるので、活発な議論する程にまでは至っていない				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	夜勤者以外が参加できるように遅出者の勤務が終了してから開催している				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	月の記録を残し、内容が分かるようにしている			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	口答での申し送りの他に、業務や入居者に関するノートを作成し周知している			○	業務日誌や会議録など職員全員が記録を必ず確認・押印することにより、確実に伝達するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口答での申し送りや業務日誌に職員間のノートを見ての周知をしている	○			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	×	努力はしているが、ユニット9人全員は困難				衣服や飲み物を選択してもらうなど、利用者に自己決定してもらう場を設けているが、なかなか決められない時は、急がせてしまうこともあるため、今後は利用者がゆっくり選べるよう配慮することが望まれる。重度の利用者を含め、笑顔が引き出せるよう声かけを工夫するなどの雰囲気づくりに期待したい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	おやつを選んでいただいたり、入浴前には自分で衣類を選んでいただいている			△	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	認知症の度合いに応じて分かるように説明したり、拒否ある場合は無理強いをさせていない				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	職員側の都合になってしまうことも多々あるのが事実だが、個人のペースで合わせられるように考えている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ユーモアのある工夫のある声掛けをしている			△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	うなずける質問をしてみたり、何とかくみ取るようにしている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職場だけでなく、日頃から態度に気を配り、都度、意識している		○	△	職員は人権や尊厳などについて研修で学んでおり、お互いプライバシーを尊重した態度や声かけ、居室出入り時のノックなど配慮に欠けていることもあるため、今後は職員全員で徹底するよう取り組むことが望まれる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	敬意を払い、さりげない声掛け、誘導を行っている			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	仕切りをして、空間に本人と介助者だけで対応している				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際には、声掛け(名前)、ノックをして入室している			△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	守秘義務の重要性を確認、理解している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	昔からの知恵をいただいて、助けていただいている				職員は利用者同士の関係性を把握しており、不穏な雰囲気になりそうな時は職員が仲介しトラブルを未然に防いでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	仲良く、複数人で協力して手伝いなどを行っていただいている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	出来る限りフロアにて生活していただき、会話やお手伝いが一緒にできるような機会を作っている			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入ることにより、距離を取ったり、ほどほどに冷めるまで話題を変えるようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居前の情報を把握し、アセスメントすることで職員間で共有するようにしている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族との話の中で把握している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	行事での外出時に周辺のドライブに行く程度である				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	8時から20時までの間は、自由に面会できるようにしている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	行事等の外出以外には行っていないのが現状で、一部の入居者によっては、望まないこともある	○	×	×	計画を立てた外出以外、日常の中で外出する機会はないため、利用者一人ひとりの希望に沿って外出することを期待したい。重度の利用者を含め、事業所の庭先に出るなど外気に触れ気持ちよく過ごす機会を増やす取り組みが望まれる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	家族以外の協力を得ての外出支援は行っていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	戸外に出られているような雰囲気作りのみで実際には出られていない			×	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	定期受診のみで普段いけないような場所には出かけられていない				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修や事業所内での勉強会等で知識を習得し、理解して介護を行っている				塗り絵など利用者ができることは自身で取り組んでもらうようにしているが、職員が中心になって行う場合が多いため、今後は利用者が積極的に取り組めるよう、職員は極力手をささず見守りながら支援することが望まれる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	機能の維持、向上を行っているが、職員主体の支援であることもあり、入居者主体の介護、支援が出来るように努める必要がある				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	理解はしているが、上記同様に職員主体の介護になっている時もある	○		△	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で、これらの事を理解し、継続できるように支援している				洗濯物を干すことやたたむことなど、利用者はそれぞれの役割や出番を楽しみながら取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	把握が難しくなってきたとしても、他の入居者と変わりに支援し、張り合いが持てるようにしている	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	事業所内にとどまり、地域の中では参加できていない				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	清潔を第一に身だしなみやおしやれに気を付けている				利用者の衣服に、汚れ等がある場合は周りに気づかれないよう着替えてもらっている。食事時の食べこぼしなどもさりげなく片付けている様子をうかがうことができた。重度の利用者を含め、好みの衣服を着たりお気に入りの髪型に整えたりするなど、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人に任せているが、自分の馴染みのある部屋に近づけるように配置しており、選択しやすいように整理整頓をしている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択できるように選択肢を与え、自己決定ができる限り可能になるように支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	四季に合わせた服装を選択していただき、準備の前から楽しめるように支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	あまり大声や周囲の入居者に気づかれぬように対応している	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	現在の入居者は、契約している美容室に出張していただきかつとしているが、希望があれば副うようにしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度の状態であっても、身だしなみや清潔を保つようにしている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	自力摂取できることが、どれだけ重要なことなのか理解している				調理の下ごしらえやお膳拭きなどは利用者到手伝してもらっている。地元の旬の野菜等を使用した昔懐かしい料理を、利用者の好み等に配慮しながら提供している。食器は馴染みのある使いやすい物を使用している。職員は食事中見守りに重点を置いており、一緒に食卓を囲んで食事をするのではないため、今後は役割分担を行うなど工夫することで食事を一緒にとる取組みを期待したい。対面式の台所になっているため、重度の利用者を含め調理の音や匂いなど雰囲気を楽しむことができる。献立について話し合うことがあまりないため、利用者がバランスよく栄養が摂れるよう、職員間で定期的に話し合う機会を設けることが望まれる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	料理の下ごしらえや盛り付け、台拭きなどしていただいている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	几帳面な入居者、大雑把な入居者とられるが、最後までお手伝いしていただくことでやりがいになり日課になりつつある				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アセスメントした上で、職員間で周知している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材が豊富にあり、また職員がそれぞれ持ち出しあって地元の食材を利用し、調理している			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	1人ひとり工夫して、配置や盛り付けなど工夫している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個別に用意し、入居者が使用しやすいものを使っている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助中だったり一緒に時間に摂取する事はできないが、常時見守るようにしている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	テーブル席と対面するフロアとなっており、音やにおいが常時味わうことができる	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事、水分量のチェックを行い、摂取量を把握している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	経過観察記録でチェックしたり、水分の種類の変更などを行っている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士の在籍はなしが、職員が業務カンファレンスで話し合っている			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	使いまわし等することなく、1度使用したら洗って乾かすことを徹底している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後の口腔ケアの実施、残渣物の除去をし、誤嚥しないように気を付けている				利用者個々の口腔内の状況は把握するようにしているが、十分ではないため、毎日口腔内の健康状況を確認し清潔が保てるようケアに努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自歯、義歯の有無や調整と気を付け、食べにくい場合などは歯医者に相談している			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修に参加し、参加した職員が職場で勉強会を開くことで理解を深め、還元している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	研磨剤が使用されていない磨き粉や洗浄剤に浸けるようにしている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケアの声掛け、ケア後の仕上げをして清潔に保たれるようにしている			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	受診は、家族協力のもとで受診され、受診が難しい時には協力医の出張往診を利用している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	その入居者に合ったケアを心掛けている				日中トイレでの排泄を基本として支援している。排泄用品等の適正性については職員間で話し合っており、利用者個々のその時の状況に即して対応している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	研修や勉強会などで理解を深め学んでいる				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	経過観察記録用紙でチェックして排泄パターンの把握に努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	日中はできるかぎり、多目的トイレ等を利用していただき、オムツに頼らず、トイレで排泄するを基本に支援している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	ケアカンファレンスや職員間の伝達事項にて共有して改善策を探っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	排泄パターンを把握し、早めの声掛けを行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	その時間帯に応じて試用するパットの大きさを変更したり、しっかりと陰部洗浄を行っている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	心身状態に合ったオムツ類の組み合わせをして使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	繊維質のものを取り入れたり、リハビリ体操や歩行運動を行って、腸の活発な動きを促している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	順番等は考慮しているが、基本は午前中の中の入浴となっている	◎		○	入浴日は決めておらず、最低週2回入浴できるほか、入浴の順番等は利用者からの要望に応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	しっかりと湯舟に浸かり、安全の為のすべり止めも使用し寛いでいただいている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	個別の状態に応じた入浴介助を支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	時間を空けて、再度声掛けしたり、誘導する職員を変更したりするなど工夫している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調を見極めながら入浴するようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録より把握はしているが、そのパターンに当てはまらない時もあるので慎重な対応が必要				日中の活動量を増やすなど工夫し、安易に薬剤に頼らないようにしている。不眠が続くなどやむを得ない場合は、主治医と相談し薬剤を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	生活歴、日中や夜間の様子観察から原因を探るようにしている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の記録や様子から、主治医、医療連携看護師と相談して方法を探るようにしている			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自宅から本人が長く愛用していた枕や毛布なども利用していただいている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望の場合は、時間帯を考慮した上で、取り次いでいる				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	リハビリの1つとして、どれだけ文字を書けるかの判断をしたり、促すことはしている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	夜間時以外は、いつでも掛けれるように対応している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等は本人に渡しており、介助が必要な場合は、本人了承の元で開封、代読している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族の方に任せているが、あらかじめ連絡が取れやすい時間帯などの相談はしている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	基本は金庫預かりだが、本人がしっかりと理解した上で持たれている入居者もおられる				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	行事で外出した時のついでにという感じで、買物だけで外出する事はほとんどない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	行事前には前もって連絡し理解、協力を得ているが、買物の頻度が少ない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人が理解した上で、所持しているも家族にはそのリスクも報告した上で、納得していただいている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に説明している				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入居時に説明と面会時には帳簿確認と押印をして頂き、毎月の出入金をコピーして送付している				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族や本人の要望も交えながら、柔軟に対応できるようにサービス提供を行っている	◎		○	急な病院受診や看取りの場合に24時間面会ができるなど、利用者や家族からの要望があれば柔軟に対応している。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	自由に出入りは出来るが、家族以外の訪問は見られない	◎	○	○	玄関には生花や鉢植え等を飾っており、親しみやすく気軽に入れる雰囲気づくりに努めており、家族も好印象を持っている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	家庭で生活しているような居室、浴室や畳の間があり、月ごと、行事ごとの飾りつけもしている	◎	○	○	共用空間には季節の花などを飾り、心地よく過ごせるよう配慮している。 掃除も行き届いており清潔感がある。ベランダではプランターで季節の野菜を育てており、壁には季節に応じた飾りつけをするなど、季節感を味わうことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の掃除や照明も適度な斜光(80ルクス)に抑えている			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	壁紙を季節感のある物に張り替えたり、季節の花を女性職員が生けることで匂いなども感じ取れるようにしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	それぞれの個室や、大勢いても、窮屈にならずに寛げるスペース(畳の間)がある				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	それぞれ仕切りがあり、一つ奥まった場所に配置している				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	特に規制する物はなく、入居時やその季節に応じて、馴染の物を持ってきて頂いている	◎		○	居室には家族の写真等大切なものや使い慣れた寝具などを置いており、居心地よく過ごせる空間になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手摺を設置しており、入居者の高さに合わせて場所がわかるようにしている			○	利用者が安全に移動できるよう手すりを設置している。また、車いす移動の妨げにならないよう足元には不要なものを置かないようにしており、安心して自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	その様な事象があれば、随時検討するようにしている				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	あるべき場所においていたり、手が届く場所に置いたりするなどしている				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は、施錠を行わないケアを徹底しており、チャイムで知らせるようにしている	◎	◎	○	代表者及び職員は玄関等に施錠することの弊害について理解しており、日中は鍵をかけておらず、自由に出入りできるようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	望まれる家族がいらないが、その時に応じて説明をしている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	開閉時には、チャイムが鳴るようになっている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時のサマリや日々の状態から把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタルチェックを行い、経過観察記録用紙に残しており、再検が必要な場合も、随時記録している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気がつきがあれば、主治医、医療連携看護師に、すぐに相談している。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居の際に主治医が変更する事をお伝えするが、今までのかかりつけの医療機関に変わらず受診できる事をお伝えして、家族の協力も得ている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	主治医に報告し、継続できるように支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診前の気付きの段階で一報入れ、病院への受診後も結果を即時お伝えするようにしている				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には、情報提供書を作成し医療機関に提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院にも足を運び、状態を確認の上、担当の医師と看護師との連携を図っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医や医療連携看護師に状態を報告し、即時対応できるようにしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	往診時に主治医に相談し、また24時間体制で医療連携看護師に電話連絡、相談できる体制を整えている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	ケアワーカー室に連絡先の掲示をしており、24時間連絡できる体制をとっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃より状態観察、様子観察し、変化があればいつでも連絡できる体制をとっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	個々のファイルに処方箋を綴じており、いつでも確認でき分かっていくようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬を取り出す時、服薬支援を行う時とその段階で都度の確認を行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	日頃の様子観察を通じ、随時確認している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方薬の効き具合や副作用の症状が発症した場合は、相談できるようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に説明して、現状での同意を得て、状態変化時にも再度の説明と同意を得ている				重度化した場合や終末期における支援方法は、利用者や家族、職員、医師等関係者と話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医の判断で看取り、終末期を迎えた時に今後の方向性の話し合いをしている	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員間での情報共有や急変時の対応についての対応や連絡がすぐつくようになっている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状態変化時には再度の説明をしている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看取りに対する指針などは入居時に渡しているが、都度心配事には説明と介護計画の変更を行い対応している				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	24時間対応にて面会できるように配慮している				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修への参加やその後の施設内勉強会にて事業所内の職員への周知徹底と情報共有を行っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルは作成しているも、事業所内での訓練は実施していない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	地元間の情報やインターネット、SNSを通して最新の情報を得ている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビニュースや新聞、地域のネットワークを通じて情報を得て対応している				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、含嗽の徹底と体調不良時はマスク着用するなどしており、面会者にも入口に手指消毒液とマスクを準備して使用していただいている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に様子をお伝えしたり、遠方の方には電話にて状況報告させていただいている				家族会や誕生日会などの行事は家族に案内状を送付し出席してもらっている。家族が遠方におり面会の機会が少ない場合は、毎月利用者の様子がわかるよう写真入りの広報誌を送付し状況を報告し、電話での近況報告も行っている。事業所の運営上のことや職員の異動等については、その都度わかるよう丁寧に説明している。家族の面会時には、職員が積極的に声をかけ、利用者の日頃の様子を伝えたり、家族からの要望等を聞いたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	どの時間帯にも気軽に面会ができ、食事時には一緒に食事が摂れるように配慮している				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	家族会への案内はもちろんの事、誕生日会等にも声掛けし出欠の確認を行っている	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月各階ごとのお便り(むつらぼし)の発行と電話での状況報告を行っている	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時に都度聞くようにしており、電話でもしっかりと納得し安心できるように対応している				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	現在の状態を前回の面会時よりどうだったかなどの説明、報告をしている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	退職や異動の際には、お便りにて都度の報告をしており、長年勤務されている職員もいるので理解を得ている	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年1の家族会のみが、事業所を通しての唯一の交流機会となっている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	状態変化に伴う、様々な弊害やリスクの説明をして対応策を話し合っている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には都度の声掛けと、遠方の方には電話にて報告させていただいている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時、契約変更時への説明は、管理者が入居者とその家族に説明し、同意を得ている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居契約書にも記載しているが、実際の退居時にも退居までの過程から退居までの説明をしている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	改定時には、しっかりと説明を行い、質問にもしっかりと返答できるようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会議や慰問での簡単な説明をしているが、地域の方に関しては、広報誌を開設してから数枚と年1の行事での紹介に終わっている	/	◎	/	地域行事だけではなく保育所・小中学校の行事にも積極的に参加している。地域のふるさと祭りの話し合いなどには施設長が参加しているが、利用者の参加は不十分と思われるため、今後は利用者と地域との関わりが深まるよう住民との交流する機会を増やすことを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	学校等の交流機会は増えているが、地域との活動は年1の行事に参加するのみとなっている。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	行事外出時にお知り合いの方とのコミュニケーションをとる機会は増えている	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	入居者の親類のみで気軽に立ち寄って頂くまでには至っていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	顔を合わせば、挨拶をするが、その程度のお付き合いになっている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	外出への支援は、主に入居者の家族のみでボランティアの支援は受けていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地元の食材を使用し、食事提供をしている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地元の施設を利用しているが、まだまだ協力、理解を得る必要がある。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	入居者の参加も入居者の家族は不参加で、地域の構成員も参加されたり、不参加だったりされる	×	/	△	運営推進会議に利用者の参加がほとんどなく、家族の参加者も固定されているため、今後は日程調整方法や議題を工夫するなど、参加が得られるような取組みを期待したい。評価結果や取組み状況等は会議で報告している。参加者からの意見や提案等については、職員間で話し合い運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	自己評価、外部評価の内容、どうして地域未着サービス評価が必要なのかの説明、報告をしている	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	しっかりと意見、質問をとる時間を設けている	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	構成員は少人数で固定されていて、時間は集まりやすい午前中に開催しているが地域の方はお仕事で不参加の方が多いので再考していく必要あり	/	△	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	しっかりと議事録はファイルしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	見えるところに掲示している				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	見えるところに掲示してあるが、見ていただいているかは確認はしていない	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員一人ひとりの介護力や技量を判断し、レベルに合った研修に参加できるようにしている				代表者は、希望休や勤務シフト、通勤時間等の配慮など、職員の要望に応じており、職員のストレス軽減につながる職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	人数が少ないながらも、仕事をしながら指導を行い、職員の介護力の底上げに努めている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職場内の意見をまとめ、月一の管理者会議で発言、報告し、可能ならば改善できるように働きかけている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	職場内での交流は全体研修会、普通救命講習、忘年会など定期的に行っているが、他の同業者との交流は研修参加のみである				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	上司には、しっかりと報連相できる体制を整えている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	当事業所内での介護・介助において不適切なケア、当たり前になっていないかをケアカンファレンス等で話し合うようにしている				職員は研修会で虐待等について学んでおり、不適切なケア等があった場合の対応方法や手順について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ケアカンファレンス、業務カンファレンス等の会議の場以外にも、普段の仕事中でも話し合う機会を設けている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修で学んだり、日々のケアに対して、注意を払っている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	ストレスがたまらない様に連体を設けたりしているが、心底の本音の部分にまで気配りで来ているかは分からない				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束廃止委員会を設置し、委員で話し合いや研修に参加し、それを業務カンファレンス等で報告している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	上記の委員会等で当事業所内の入居者に照らし検討も行っている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束する事以外の別の方法も説明し、理解を求めるようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修等には参加しているが、当事業所内で制度利用している入居者はおらず、また制度の理解も難しく十分な理解には至っていない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談に乗れるように準備している				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	該当するケースに当たった事はないが、相談に乗れるように連携体制を構築したい				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、個別の情報も作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	1年に1度は、社内全体での普通救命講習を数回に分けて行っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを同日中に作成し、職員が周知出来るようにしており、また口答でも報告している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個々のリスクをカンファレンス等で検討し事故防止に対応できるように努めている				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	この1年苦情はないものの、マニュアルは作成している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	すぐにミニカンファレンスを開き、対応策を検討し、上司や市にも報告を出来る体制を整えている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに対応し、理解を得る様に努めるようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	入居契約書内に4つの苦情窓口を明記している			○	利用者からは日常生活の中で意見や要望を聞いている。家族からは面会時や電話などで意見や要望を聞くようにしている。管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図り、業務カンファレンス以外にも利用者支援に関することなど意見を聞く機会を設けており、事業所の運営に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時に何かあればお聴きしている	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	適宜、行えてはいない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	数カ月に最低1回は、事業所に訪問して頂き、職員の話聞く機会を作っていたい				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	意見を聴く機会を設けているが、十分に支援していく為にはもっと密にする必要がある			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は行っているが、その後に活かせるようにしていきたい				評価結果は報告しているが、取組み状況のモニターをするまでに至っていないため、今後は参加者から取組みに関するモニターが実施できるまでの理解が得られるよう関係が深まることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題が明白となれば、事業所職員間で周知徹底し、向上するように取り組んでいきたい				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	結果を踏まえて、今後活かせる職員全体で取り組めるようにしていきたい				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議での構成員への報告が主になっており、今後は評価結果が公表されているHP等の紹介、当事業所での掲載場所の周知をしていきたい	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	報告は行っているも、成果の十分な確認は職員間で違ったりする				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	施設独自のマニュアル作成をして周知している				年2回消防署の協力により避難訓練は実施しているが、地域住民参加の合同の避難訓練までには至っていない。今後地域住民と緊急連絡網の活用等について話し合う機会を設けるなど、緊急災害時の地域との協力支援体制を構築する取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	日中、夜間帯としての訓練を行っているが、もっと細かい時間設定を想定した計画も考えていきたい				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的な設備点検と消防署職員の立ち合いのもと年に1回は消火設備等の点検を行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	連絡網はあるが、話し合う機会を設けていない	○	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	当事業所のみで共同では行っていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	地域に向けての発信はできていない				事業所に相談に来た人の相談支援のみであるため、今後は事業所の相談支援を地域にPRし、相談件数の増加に努めるなど積極的な取組みを期待したい。市など関係機関との協働の地域活動の実施には至っていないため、今後は認知症の理解、啓発活動につながる地域イベントを地域関係機関と協働して実施するなど、地域の福祉の拠点となる事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	入居申し込み時には、相談している		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	交流の場としての開放、活用は行っていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地元の中学校の職場体験学習の受け入れ先として、希望する生徒がいれば、毎年受け入れている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	協働しながらの十分な活動は行っていない			△	